

読んでスッキリ♪ いまさら聞けない？
話題のニュースを学べるマガジン

ご参考資料 ピクテ投信投資顧問

Bonjour

ボンジュール!!

2016年
2月3日号

Vol.286



黒田バズーカ第3弾！日銀マイナス金利導入

●黒田バズーカ第3弾

日銀は、1月29日に行われた金融政策決定会合で日本で初めて銀行から預かる当座預金に対して一部金利をマイナスにする追加金融緩和策を決定しました。

また、国債買取やETFやJ-REITの買取なども維持したものの、2%の物価目標の達成時期については2017年前半ごろに後ずれさせました。

●先陣を切ったECBとの違いは？

今回の日本と同じように、欧州中央銀行（ECB）は既にマイナス金利を適用しており、当座預金全体にマイナス金利を適用しています。一方日銀は**2月16日から三段階の階層構造に分割し、プラス金利、ゼロ金利を適用する部分を越えた残高に対して、マイナス金利を適用**します。ECBが階層構造を取っていないのは準備預金が日本ほど、大きな額ではない為、階層構造を取らなくても金融仲介機能が損なわれる恐れが無いためと一般には言われています。

●今後の影響は？

東京市場では、銀行が日銀にお金を預けるよりも国債を買うだろうとの思惑が働き、**10年物国債の利回りが0.1%を下回り、現在も史上最低利回りを継続**しています。今後も国債

利回りの低下が更に進めば、下記の3点から景気の下支えが期待できそうです。

①住宅ローン金利や企業向けの貸出し金利が一段と低下。

②融資や株式投資などに資金が振り向けられ、企業収益や賃金の改善を通じて景気回復や物価上昇に繋がる効果。

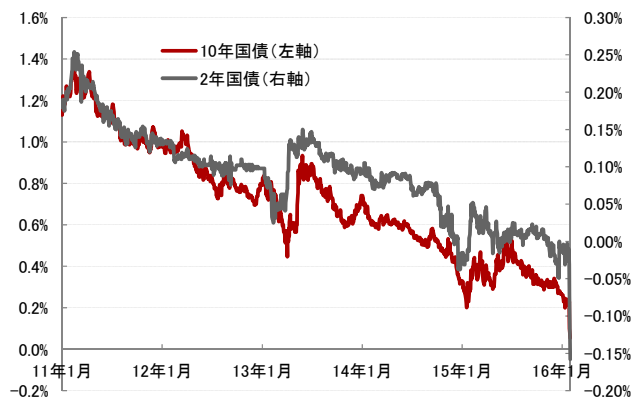
③金利差による円高圧力が和らぐ。

一方、急激な国債の利回り低下で、安定的な運用が出来なくなる支障があるとのことから、日本の投信会社が相次いで、中期国債ファンドやMMFなどの購入申し込みを停止するなど副作用も出始めています。

日銀の勝負はこれからが本番です。この効果がどこまで続くか今後の市場動向に注目していきましょう。

■日本10年国債と2年国債の利回り推移

（日次、期間：2011年1月3日～2016年2月1日）



出所：ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。